

氏名	国分 貴徳	部署	理学療法	職名	准教授
研究分野	基礎理学療法(動物実験、バイオメカニクス)、運動器理学療法学				
学位	博士(医学)@東京医科歯科大学、 修士(リハビリテーション学)、学士(理学療法学)@埼玉県立大学				
学歴	2004年3月 埼玉県立大学 保健医療福祉学部 理学療法学科 卒業 (理学療法士) 2011年3月 埼玉県立大学大学院 保健医療福祉学研究科 修了 修士 2016年9月 東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 修了				
経歴	2004.4 ~ 2011.5 医療法人 名圭会 白岡整形外科 リハビリテーション科 2011.5 ~ 2019.3 公立大学法人 埼玉県立大学 理学療法学科 助教 2019.2 ~ 現在 Shriners Hospital for Children, Portland Research Center, Visiting Scientist 2019.4 ~ 現在 公立大学法人 埼玉県立大学 理学療法学科 准教授				
所属学会(役職)	国内: 日本基礎理学療法学会、日本運動器理学療法学会、埼玉県理学療法学会、専門リハビリテーション研究会、日本発生物学会、 国際: Orthopaedic Research Society (ORS), Society for Neuroscience (SfN), International Society for Physical and Rehabilitation Medicine(ISPRM), Osteoarthritis Research Society International (OARSI)				

【2024年度実績】

1. 研究業績							
(1) 著作(著書及びその他の著作物)							
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月	
1	該当なし						
(2) 論文							
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ	著者、編者名	発表等年月
1	Muscle Contraction is Essential for Tendon Healing and Muscle Function Recovery after Achilles Tendon Rupture and Surgical Repair.	共著	なし		bioRxiv	Yoneno M, Minegishi Y, Takahashi H, Takahata K, Miyamoto H, Usami Y, Kokubun T	2024.5.1
2	Concurrent Joint Contact in Anterior Cruciate Ligament Injury induces cartilage micro-injury and subchondral bone sclerosis, resulting in knee osteoarthritis	共著	なし		bioRxiv	Takahata K, Lin Y, Osipov B, Arakawa K, Enomoto S, Christiansen B, Kokubun T	2024.5.10
3	Substantial Braking Force of Anterior Tibial Translation Induces the Spontaneous Healing of Murine Anterior Cruciate Ligament	共著	なし		bioRxiv	Saito R, Nakayama K, Usami Y, Enomoto S, Nogi K, Kokubun T	2024.6.2
4	漸増力制御課題で顕在化する脳卒中者の異常な運動単位動員様式の経時的特徴	共著	なし		リハビリテーション医学研究財団研究論文・事例報告集 VOL.24:4-9, 2024	伊藤実央, 国分貴徳	2024.10.1
5	アキレス腱治癒において腱延長・腱強度回復不全をもたらすメカニズム解明	共著	あり		基礎理学療法学-日本基礎理学療法学会 学術誌-	米野萌恵, 野木康陽, 伊藤貴紀, 宇佐美優奈, 国分貴徳	2025.1.7
6	Muscle Contraction is Essential for Tendon Healing and Muscle Function Recovery after Achilles Tendon Rupture and Surgical Repair	共著	あり	○	Journal of Orthopaedic Research	Yoneno M, Minegishi Y, Takahashi H, Takahata K, Miyamoto H, Usami Y, Kokubun T	2025.1.12
7	脳卒中片麻痺者の運動単位動員様式は病期により異なる特徴を示す	共著	あり		理学療法学	伊藤実央, 伊藤貴紀, 中村高仁, 国分貴徳	2025.2.7

(3) 学会発表					
	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市	発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	Early synovitis in the knee joint with instability induces cartilage degeneration but doesn't affect long-term	共同	OARSI 2024 World Congress on Osteoarthritis	Takahata K, Arakawa K, Enomoto S, Yoneno M, Usami Y, Takahashi H, Kokubun T	2024.4
2	Comparison of Compression and Non-Compression Anterior Cruciate Ligament Rupture Models in Mice	共同	OARSI 2024 World Congress on Osteoarthritis	Takahata K, Lin Y, Opisov B, Arakawa K, Enomoto S, Christiansen B, Kokubun T	2024.4
3	Physiological Movement and Ambulation are not Direct Inducible Factors of the Morphological Change of the Patella in Postnatal Mice	共同	JSDB2024	Usami Y, Hirata S, Kokubun T	2024.6
4	The Neuromuscular Functions in Stroke Patients Were Changing Depending on the Post-Onset Phases	共同	ISEK2024	Ito M, Kokubun T	2024.6
5	Motor Unit Activity and Active Area Changes in the Gastrocnemius Muscle During Single Joint Movement	共同	ISEK2024	Nogi K, Kokubun T	2024.6
6	Physiological Movement and Ambulation Induce the Tendon Development in Early Postnatal Mice	共同	Musculoskeletal Biology and Bioengineering Gordon Research Conference	Usami Y, Saito R, Nogi K, Ito T, Kokubun T	2024.8
7	Effect of Increasing the Mechanical Stress During the Spontaneous Healing Process of Completely Injured ACLs in Mice	共同	Musculoskeletal Biology and Bioengineering Gordon Research Conference	Saito R, Nakayama K, Usami Y, Enomoto S, Nogi K, Kokubun T	2024.8
8	A Novel Prolonged Progressive Cartilage Degeneration Model; To Reveal the Onset Mechanism of Primary Knee Osteoarthritis	共同	Musculoskeletal Biology and Bioengineering Gordon Research Conference	Sato M, Enomoto S, Arakawa K, Takahata K, Miyamoto H, Saito R, Nogi K, Kokubun T	2024.8
9	筋・腱構造が関節運動時の神経調節に与える影響の解明	共同	Motor Control研究会	野木康陽, 国分貴徳	2024.8
10	足関節運動時における神経筋活動から解明する神経制御メカニズム	共同	第12回日本運動器理学療法学会学術大会	野木康陽, 国分貴徳	2024.9
11	模擬円背姿勢における歩行時の下肢筋活動変化に関する研究	共同	第12回日本運動器理学療法学会学術大会	小島理志、野木康陽、宇佐美優奈、中村高仁、 国分貴徳	2024.9
12	立位姿勢制御に関わる身体協調運動機能の探索	共同	第12回日本運動器理学療法学会学術大会	鈴木瑞穂, 野木康陽, 国分貴徳	2024.9
13	Characteristics of Motor Unit Activity from Different Types of Electrodes in Multi-Channel Surface Electromyography	共同	Neuroscience 2024 53th ANNUAL MEETING	Ito M, Nogi K, Kokubun T	2024.10
14	Differences in motor unit activity during movement depend on muscle structure.	共同	Neuroscience 2024 53th ANNUAL MEETING	Nogi K, Kokubun T	2024.10
15	アキレス腱治癒において腱延長・腱強度回復不全をもたらすメカニズム解明	共同	第29回日本基礎理学療法士学会学術大会	米野萌恵, 国分貴徳	2024.10

16	腱成熟過程において筋収縮と関節運動がもたらす影響-生後早期マウスモデルを用いた検証-	共同	第29回日本基礎理学療法士学会学術大会	宇佐美優奈, 野木康陽, 伊藤貴紀, 国分貴徳	2024.10
17	損傷前十字靭帯の自己治癒過程におけるリハビリテーションの影響と性差の解明	共同	第29回日本基礎理学療法士学会学術大会	齊藤陸, 中山和己, 宇佐美優奈, 野木康陽, 榎本沙彩, 国分貴徳	2024.10
18	経産による姿勢・歩容変化が将来の膝関節軟骨表層の微細構造に及ぼす影響	共同	第29回日本基礎理学療法士学会学術大会	佐藤路晃, 榎本沙彩, 宮本ひまり, 宇佐美優奈, 高畠啓, 野木康陽, 国分貴徳	2024.10
19	棘上筋機能障害に伴う筋変性を予防する運動介入効果の検証	共同	第29回日本基礎理学療法士学会学術大会	高橋花奈, 米野萌恵, 国分貴徳	2024.10
20	関節運動の減弱は半月板の組織形態の発達に影響を与える	共同	第29回日本基礎理学療法士学会学術大会	宮本ひまり, 宇佐美優奈, 佐藤路晃, 国分貴徳	2024.10
21	腱細胞周囲の硬さ変化が腱細胞のメカノバイオロジーに与える影響	共同	第29回日本基礎理学療法士学会学術大会	中山和己, 荒川航平, 大山智子, 高畠啓, 米野萌恵, 国分貴徳	2024.10
22	前十字靭帯損傷時の関節面接触は軟骨微細損傷を介して軟骨下骨硬化を惹起する	共同	第29回日本基礎理学療法士学会学術大会	高畠啓, Yu-Yang Lin, Benjamin Osipov, 荒川航平, 榎本沙彩, Blaine Christiansen, 国分貴徳	2024.10
23	変形性膝関節症患者における運動学的特徴と軟骨下骨病変の量的特徴との関連	共同	第29回日本基礎理学療法士学会学術大会	小島理志,黒尾元基,畑純一,中村高仁, 国分貴徳	2024.10
24	筋・腱構造が関節運動時の神経筋活動に及ぼす影響の解明	共同	第29回日本基礎理学療法士学会学術大会	野木康陽, 国分貴徳	2024.10
25	脳卒中回復期及び慢性期における麻痺筋の運動単位動員様式の違い	共同	第29回日本基礎理学療法士学会学術大会	伊藤実央, 国分貴徳	2024.10
26	構え姿勢の違いによるサイドステップ反応の筋活動探索	共同	第29回日本基礎理学療法士学会学術大会	山崎千聖, 中村高仁, 国分貴徳	2024.10
27	立位姿勢制御に関わる新たな身体協調運動指標の検討	共同	第29回日本基礎理学療法士学会学術大会	鈴木瑞穂, 野木康陽, 国分貴徳	2024.10
28	前十字靭帯再建術と比較した保存的治療法の適応性解明 -マウスモデルを用いた検討-	共同	第11回日本スポーツ理学療法学会	齊藤陸, 宇佐美優奈, 米野萌恵, 野木康陽, 国分貴徳	2025.1
29	脳性麻痺児の腱変性予防へ向けた腱発達プロセスに関する基礎研究 -マウスモデルでの検証-	共同	第32回埼玉県理学療法学会	宇佐美優奈, 国分貴徳	2025.1
30	荷重を伴わない関節運動がもたらす変形性膝関節症への進行抑制効果の検証	共同	第32回埼玉県理学療法学会	高畠啓, 米野萌恵, 荒川航平, 国分貴憲	2025.1
31	半月板損傷部位の違いは変形性膝関節症に異なる影響を及ぼす	共同	第32回埼玉県理学療法学会	宮本ひまり, 榎本沙彩, 高畠啓, 国分貴徳	2025.1
32	脳卒中片麻痺者における病期の違いによる運動単位動員様式の解明	共同	第32回埼玉県理学療法学会	伊藤実央, 伊藤貴紀, 中村高仁, 国分貴徳	2025.1
33	末梢の神経筋活動変調から解明する乳幼児の歩行発達プロセス	共同	第32回埼玉県理学療法学会	山崎千聖, 伊藤実央, 国分貴徳	2025.1
34	Impairment of Muscle Contraction Leads to Imperfect Tendon Maturation in Postnatal Phase	共同	ORS 2025 Annual Meeting	Usami Y, Saito R, Nogi K, Ito T, Takahata K, Yano T, Kokubun T	2025.2
35	Increased Mechanical Stress On The Spontaneous Healing Process Of The Anterior Cruciate Ligament Does Not Cause Adverse Events In Mice Model	共同	ORS 2025 Annual Meeting	Saito R, Nakayama K, Usami Y, Enomoto S, Nogi K, Kokubun T	2025.2

36	Significance of joint movement in the developmental process of the mouse meniscus	共同	ORS 2025 Annual Meeting	Miyamoto H, Usami Y, Kokubun T	2025.2
37	Effects of Postpartum postural and gait changes on the future microstructure of the surface layer of the knee joint cartilage	共同	ORS 2025 Annual Meeting	Sato M, Enomoto S, Miyamoto H, Usami Y, Takahata K, Nogi K, Kokubun T	2025.2
38	Every Other Day of Electrical Muscle Stimulation Leads Hypertrophy Without Inhibition of Tendon Healing	共同	ORS 2025 Annual Meeting	Yoneno M, Nogi K, Ito T, Kokubun T	2025.2
39	Association Between Kinematic and Quantitative Features of Subchondral Bone Lesions in Patients with Pre- and Early-Knee Osteoarthritis.	共同	ORS 2025 Annual Meeting	Kojima S, Kuroo M, Hata J, Nakamura T, Kokubun T	2025.2
40	脳卒中片麻痺者に対する体外衝撃波介入前後における運動単位動員様式の探索	共同	日本物理療法合同学術大会2025	伊藤実央, 国分貴徳	2025.2
(4) その他					
	名称	単・共	発表場所等	発表者 (発表者は○印)	発表等年月
1	該当なし				
2. 競争的資金等の研究					
	競争的資金等の名称		研究名	研究代表者・研究分担者の別	研究期間
1	科研費 基盤研究B		前十字靭帯損傷に対する新たな治療スキーム確立にむけた前臨床モデル研究	研究代表者	2024-2026年度
3. 教育業績					
(1) 講義					
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要 (教育内容・方法等において工夫した点)	
1	運動学入門 (学部:1年前期)		2	一年生に対し, 理学療法の基本となる運動学について, 導入的体験と知識の統合を行う科目である。姿勢と歩行について担当した。	
2	身体構造運動学 (学部:1年後期)		7	身体の構造についての理解を深め, 身体運動を生成する構成体への理解を深める科目である。下肢について担当した。	
3	身体機能運動学 (学部:2年前期)	○	7.5	運動を制御する神経機構と効果器としての筋, 関節など, 運動が生成されるメカニズムについて, 概説した。	
4	リハビリテーション基盤実践学 (大学院前期課程)		2	リハビリテーション基盤科学, リハビリテーション応用科学を解説し, 根拠に基づくリハビリテーション介入について学ぶ科目である。理学療法領域の効果検証と生体動作解析情報による検証について担当した。	
5	保健医療福祉研究法特論 (大学院前期課程)		2	本学大学院で行われる研究について, 分野横断的に学習し, 広く保健医療福祉領域の研究手法について学ぶ科目である。理学療法領域の研究について担当した。	
6	障害基礎解析学 (大学院前期課程)		6	運動器の障害構造を解析するために必要となる知識と技術を学ぶ科目である。運動機能解剖学的分析および生体信号処理について担当した。	
7	理学療法症候障害論 (大学院後期課程)		2	対象疾患に関する運動学, 運動力学, 生体工学, 臨床神経生理学, 運動生理学, 組織学, 生化学などの最新研究手法を学び, 科学的根拠のある理学療法の効果検証方法とその限界について学ぶ科目である。	

(2) 演習				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要 (教育内容・方法等において工夫した点)
1	基礎運動療法学演習 (新カリ、学部：1年後期)		2	「歩行」をテーマ、その身体制御機構やバイメカニクス等について、講義を行い、その後正常歩行の神経制御メカニズムについて、グループディスカッションを行った。
2	理学療法セミナー (OSCE I, II) (学部：3, 4年前期)		15	実習へ向けた、臨床実践科目である。科目担当者として試験監督とフィードバックおよび試験の運営を担当した。
3	理学療法診断学演習 (学部：3年前期)	○	8	患者の病態について、運動学的な視点から問題点を考察し、介入方法を検討する流れについて演習を行った。
4	スポーツ理学療法 (学部：3年後期)	○	8	理学療法領域におけるスポーツ傷害の予防とリハビリテーションについて、理論とその実際を実技も含め講義した。
5	障害基礎解析学演習 (大学院前期課程)		14	リハビリテーション領域の研究について、ヒトを対象とした研究から基礎研究に至るまで、その実際や具体的研究手法の解説等を行った。
6	理学療法症候障害論演習 (大学院後期課程)		4	疾病や障害によって生じた機能制限因子や活動制限・参加制限について理学療法症候障害学論で学んだ知識を深め、理学療法の効果検証を行うための研究手法について演習する科目である。
(3) 実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要 (教育内容・方法等において工夫した点)
1	ヒューマンケア体験実習 (学部：1年後期)		8	科目担当者として、グループの学生へのオリエンテーションや実際の実習におけるメンタリング、報告会等を担当した。
2	運動学実習 (学部：2年前期)	○	22	重心の推定とその動揺、姿勢と重心について、古典的方法から、重心動揺計及び三次元動作解析装置と床反力計を使用した実習を行った。
3	臨床教育実習 I, II, III, IV (学部：2, 3, 4年)		-	4年生の実習 (臨床教育実習 III・IV) は科目の責任者として、その運営を担当した。また、実習施設の担当者として、実習施設訪問と実習後のフィードバックを担当した。
(4) 論文指導				
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	卒業論文	2024.4-2025.3	主指導 7名	副指導 0名
2	修士論文	2024.4-2025.3	主指導 (指導教員) 5名	副指導 (指導補助教員) 0名
3	博士論文	2024.4-2025.3	主指導 (指導教員) 8名	副指導 (指導補助教員) 0名
(5) その他				
	名称	期間	概要 (教育内容・方法等において工夫した点)	
1	学部ゼミ生指導	2024.4-2025.3	3-4年生の総勢7名のゼミ生に対し、指導を行った。	
4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師				
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	第13回 日本運動器理学療法学会	日本運動器理学療法学会	ライブデモンストレーション1 日本理学療法学会連合版関節可動域評価指針	2025.9.14-15
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等				
	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称		任期
1	公益社団法人 日本理学療法士協会	理学療法標準化検討委員会		2021.4～現在
(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称	内容		年月
1	該当なし			
(4) その他				
	項目	相手方等	内容	期間
1	該当なし			

5. 学内運営			
	項目	内容	期間
1	全学的委員会及びセンター業務等	奨励研究部会	2018.4～現在
2	全学的委員会及びセンター業務等	研究推進委員会	2020.4～現在
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）			
	受賞名	主催	受賞年月
1	該当なし		
7. 特許の取得			
	特許名	特許番号	登録年月
1	該当なし		
8. 特記事項			
1	該当なし		